

### 京都市基本構想における関連記述

# 文化



～魅力あふれるまち～

わたしたち京都市民は、これまでに生み出され、培われ、磨き上げられてきた市民文化をさらに成熟させ、より豊かで華やきのある市民文化をかたちづいていく。京都という地に、そのような成熟した文化を実現するためには、＜略＞京都が培ってきたあらゆる文化資源の間で活発な交流を起し、広く国内外との多彩な交流を通じて、それらを今まで以上に生かしていく必要がある。

### これまでの主な取組

京都が世界的な文化芸術都市となることを目指す「京都文化芸術都市創生条例」の制定、「京都文化芸術都市創生計画」の策定。市民、芸術家、企業等が様々な形で参画する「文化ボランティア制度」の創設、世界遺産に登録された二条城での築城400年記念事業などを実施

平成18年4月施行

京都文化芸術都市創生条例



平成15年創設

文化ボランティア制度



平成17年10月開館

元離宮二条城「築城400年記念 展示・収蔵館」



国宝の二の丸御殿

## 論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス(追い風)は？ 放置できない問題(向かい風)は？
- ◇ 活用できる資源(強み)は？ 克服すべきこと(課題)は？

外部環境分析（施策を推進するうえで、追い風又は向かい風となる変化や社会的な状況）	
追い風	向かい風
<ul style="list-style-type: none"> <li>○京都芸術センターが活発に利用されている</li> <li>○国の支援も強化</li> <li>○アーティスト・イン・レジデンス事業の応募実績が堅調</li> <li>○国でも人材育成に力点</li> <li>○京都文化祭典における多彩な文化催しの開催</li> <li>○文化財の数が着実に増加</li> <li>○文化ボランティアの新規登録者数は増加傾向</li> <li>○芸術系大学作品展入場者数は増加傾向</li> <li>○文化芸術の活用が地域のまちづくりに有効であると考えられている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○京都の文化の豊かさが必ずしも市民に享受されていない</li> <li>○社会環境や生活様式の変化により、伝統行事や文化財に関わる伝統技術の保存継承が困難となっている</li> <li>○都市化の進展等により、歴史的価値の高い建造物や庭の消失が進んでいる</li> <li>○国内外で「文化芸術によるまちづくり」が進められるなか、文化芸術に係る相対的な取組の遅れが生じるおそれ</li> <li>○他都市でも文化を活用した産業等の活性化に重点が置かれた</li> </ul>
京都の現況分析（他都市等と比較して、京都の現況が優位又は劣位である事項）	
京都の強み	京都が解決・克服すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○文化施設など豊かな文化資源を有する</li> <li>○人材育成の機能が充実</li> <li>○世界遺産をはじめ、国宝・重要文化財、市指定・登録文化財など多種多様な文化財が数多く所在する</li> <li>○京都に対する旅行者のイメージは、「歴史・文化が素晴らしい」が約80%と圧倒的に強い</li> <li>○京都に関する感想調において、「名所旧跡」「文化財」等が観光客から高い評価を得ている</li> <li>○市民満足度が高い</li> <li>○市民の文化芸術への関心が高い</li> <li>○市民も「京都では文化財に親しむ機会が多い」と実感</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品発表の場が不十分</li> <li>○各文化施設等の連携が十分でない</li> <li>○施設の老朽化に伴う諸問題の発生</li> <li>○数多くある貴重な文化財を保存・活用するための経費や人材など支援基盤が脆弱である</li> </ul>

## 論点2 政策の基本方向

### ◇ 今後10年間の基本的考え、価値観は？

#### これまでの動き

#### <現在の方向性>

- ・ 優れた京都の文化芸術を通じて市民生活やまちづくりの取組を活性化し、併せて学術や産業との連携を図ることにより、京都を新たな魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生することを目指す（京都文化芸術都市創生条例）
- ・ 文化芸術の振興だけでなく、文化芸術によるまちづくりを進める
- ・ 「個別の取組」だけでなく、様々な力の連携によるネットワークづくりを進める
- ・ 行政主導型の推進よりも、市民、芸術家、企業等のパートナーシップ型の推進を図る
- ・ これまで以上に京都の文化芸術の魅力や豊かさ＝「今ある文化資源」を活用する（京都文化芸術都市創生計画）

#### <政策を進めるうえでの悩み>

- ・ 社会環境の変化や人々の生活様式の変化等により、従前、京都の特性であった「文化芸術と人々の生活や地域との密接なつながり」が次第に希薄化していくおそれがある
- ・ 芸術団体、関係機関、企業等への、市民の皆さんの期待は大きい。行政として、これらと連携し、また支援し、それぞれの取組を一つの力に結びつけていく必要がある
- ・ 市民の皆さんの、京都の豊かな文化芸術の関心は高い。これに見合う機会を提供する必要がある

#### <関連データ>

- ・ 約6割の市民が「文化芸術によって、地域に人が集い、交流が生まれ、にぎわいが出る」、5割強の市民が「地域の住民のつながりが強まる」と考える
- ・ 約6割の市民が「行政と関係機関の連携」が必要、「市民や芸術家等の取組」や「企業による支援」も約5割の市民が必要と答える
- ・ 8割の市民が文化芸術を楽しみたいと思っている、うち6割は「機会があれば」と回答

## 論点3 市民と行政の役割分担と共汗

### ◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

## 論点4 10年後に目指すべき姿

### ◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？